
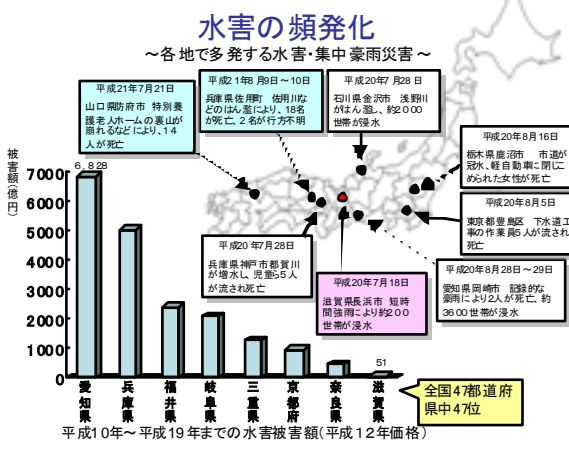


2.2.3 資料説明の事例

ここでは、2009年に実施された近江八幡市小田町での出前講座を事例に資料の説明方法を示します。

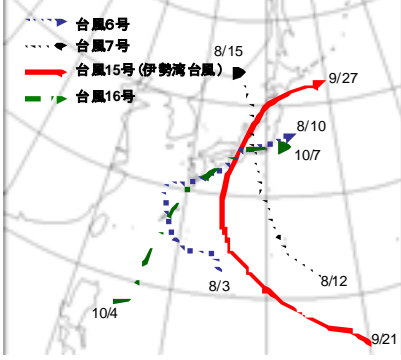

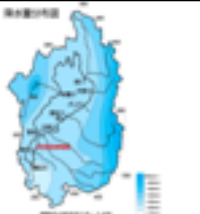


スライド	話す内容
<p>1. 表紙</p> 	<p>【参考説明文】</p> <p>それでは、「水害に強い小田町をめざして」と題して出前講座をはじめさせていただきます。</p>
<p>2. 水害の頻発化</p>  <p>水害の頻発化 ～各地で多発する水害・集中豪雨災害～</p> <p>平成21年7月21日 山口県防府市 特別養護老人ホームの裏山が崩れるなどにより、14人が死亡</p> <p>平成21年8月9日～10日 兵庫県佐用町 佐用川などの氾濫により、19名が死亡、2名が行方不明</p> <p>平成20年7月28日 石川県金沢市 浅野川がはん濫、約2,000世帯が浸水</p> <p>平成20年8月16日 栃木県鹿沼市 市道が冠水、軽自動車に閉じこめられた女性が死亡</p> <p>平成20年8月5日 東京都豊島区 下水道工事の作業員5人が流され死亡</p> <p>平成20年7月28日 兵庫県神戸市 都賀川が増水し、児童5人が流され死亡</p> <p>平成20年7月18日 滋賀県長浜市 短時間強雨により約2,000世帯が浸水</p> <p>平成20年8月28日～29日 愛知県岡崎市 記録的な豪雨により2人が死亡、約36,000世帯が浸水</p> <p>平成10年～平成19年までの水害被害額(平成12年価格)</p> <p>全国47都道府県中47位</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 滋賀県は全国的に水害が少ない県である。 ・ 全国的には水害が増加しており、滋賀県においても対策が必要である。 <p>【参考説明文】</p> <p>左側のグラフは、縦軸に水害の被害額、横軸に滋賀県の周辺の県をならべたものです。一番被害額が大きいのが愛知県で、東海豪雨で沢山の被害がでました。滋賀県はというと、47都道府県中47位ということで、全国で一番水害被害が少ない、状況となっている。、日本地図でしめしているのは、昨年と今年の7月、8月のゲリラ豪雨の被害を示しているが、昨年はゲリラ豪雨が沢山の各地で発生している。兵庫県の都賀川で子どもの方が流されてしまったということもあったし、東京では、下水道管の中で工事をされていた方が流されてしまったというのが、記憶に新しいところだと思う。また、今年では8月には佐用町で早くから自主避難しようという方が濁流に流されて亡くなられたという痛ましい事故が起きている。滋賀県でも、昨年の7月18日には、長浜市で1時間に84mmという非常に猛烈な雨が降った。</p>

スライド	話す内容
<p>3. 水害に強い地域づくり協議会について</p> <p>水害に強い地域づくり協議会</p> <p>◇目的 琵琶湖および河川の洪水により、将来にわたって人命被害を含む壊滅的な被害が生じる恐れのある地域を対象に、個別具体的な課題を抽出し「自分で守る」「地域で守る」の視点に立った対策を検討する。</p> <p>◇構成員 市町、国、県、学識経験者</p> <p>◇設置圏域 3圏域(大津・湖南、東近江、湖北)</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水害に強い地域づくり協議会を説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>水害に強い地域づくり協議会につきましては、市町の皆さんと、国、県、学識経験者というこうとで、京都大学の先生お二人に入って頂いて、自分のことは自分で守る「自助」、地域のことは地域で守る「共助」という視点に立った減災対策をみんなで考えていくことを目的に、現在県内3つの地域で活動している。</p>
<p>4. 東近江圏域のはん濫特性</p> <p>東近江圏域のはん濫特性</p> <p>琵琶湖の洪水 琵琶湖の水位上昇に伴い湖岸沿いや干拓地では、浸水が長期間継続する。</p> <p>河川のはん濫 天井川が合流する地域では内水はん濫が発生しやすく、急激に深く浸水する。</p> <p>最大浸水深図 (M29年9月降 雨相当発生時)</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域内の氾濫特性について説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>東近江圏域の水害については、2つの大きな特徴ある。1つは河川の氾濫で天井川があるということで、天井川が合流する地域では、内水氾濫が発生し、急激に深く浸水するところが多数ある。2つめは、大中や、水葦などの干拓地があり、琵琶湖の水位がどんどん上がっていくと、琵琶湖沿いや干拓地が浸水し、浸水が長期間継続するという特徴がある。</p>
<p>5. 各自治会へのアンケート結果 (近い将来、豪雨災害は大丈夫?)</p> <p>近い将来、豪雨災害は大丈夫?</p> <p>～県内全自治会を対象とした地域防災力アンケート～</p> <p>約7割の自治会(長)で水害来襲の意識が低い!</p> <p>■ かなり危険性高い ■ やや危険性ある ■ 危険性低い ■ 危険はない ■ わからない ■ 不明、未回答</p> <p>★ 反動! 水防訓練は8割の自治会を実施されていない</p> <p>問:今後10年以内に床上浸水のような大きな水害が発生する危険性はあると思いますか?</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県政モニターアンケート結果を用いて、住民の水害に対する意識が低いことを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>皆さんはどういう意識を持っておられるかということ県内の全自治会長の代表にアンケートを実施した。それによると、今後10年間に床上浸水のような大きな水害が発生するケースが皆さんの自治会であると思いますかというような問いをさせて頂くと、なかり危険性が高いとか、やや危険性があるという自治会が15%程度で、危険性が低い、危険性はない、まあ大丈夫でしょうという自治会が68%、約7割の自治会長さんが大丈夫と感じている。</p>







スライド	話す内容
<p>6. 各自治会へのアンケート結果（近い将来、豪雨災害は大丈夫？）</p> <p>近い将来、豪雨災害は大丈夫？ ～県内全自治会を対象とした地域防災力アンケート～</p> <p>約7割の自治会（長）で水害来襲の意識が低い！</p> <p>まあ大丈夫でしょう？ 68%</p> <p>H21.1 県政モニターアンケートでも同様の結果約8割！！</p> <p>反動！ 水防訓練は8割の自治会を実施されていない</p> <p>問：今後10年以内に床上浸水のような大きな水害が発生する危険性はあると思いますか？</p>	<p>【参考説明文】</p> <p>同じように県政モニターアンケートでも、約8割の方が、大丈夫だと思っている。防災訓練の実施をされている自治会に同じようにアンケートできくと、8割の自治会が、水防訓練なんかしていないというような結果だった。防災訓練の内、一番多いのは消火訓練である。その次は地震の訓練である。水害に対する訓練を実施しているという自治会は、ほとんど無い。先ほどもお話ししたように、ここ10年、一番全国で被害が少ないという本県の状況から、水害に対する、意識が低いと考えられる。</p>
<p>7. 各自治会へのアンケート結果（被災経験が次の世代に伝わっていない？）</p> <p>被災経験が次の世代に伝わっていない？ ～県内全自治会を対象とした地域防災力アンケート～</p> <p>被災経験のある自治会の半数で、若い世代の者は過去の被災を知らない」と回答</p> <p>47.8%</p> <p>問：地域のみならず過去の被災について知っているとしますか。</p> <p>問：自然災害を受けたことがありますか。</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害の経験が次の世代に伝わっておらず、水害の経験の伝承が必要であることを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>自治会長さんのお話にあったように、伊勢湾台風からちょうど今年で50年目、そういう被害経験が次の世代にうまく伝わっているのか、調査した。自治会で自然災害を受けたことがあるかという問いに対して、全体の42%が、何らかの被害を受けているという回答であったが、被災経験のある自治会の半数では、水害経験があることを若い世代は知らない、という回答を自治会長はしており、次の世代にうまく伝えていくというのが次の課題ではないかと感じている。</p>


スライド	話す内容
<p>8. 各自治会へのアンケート結果（被災体験を伝える工夫が必要では？）</p> <p>被災体験を伝える工夫が必要では？ ～県内5自治会を有難した地蔵防災員アンケート～</p> <p>工夫無しが8割近く！ 語り伝えだけでは・・・</p> <p>問：地域のみならず情報が共有できる工夫をされていますか。</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水害経験の伝承の工夫が行われていないことを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>それでは、なにか工夫をされているのかということで、対岸の小南の集落では愛郷史という本を作っており、治山、治水という項目で伊勢湾台風のような災害について記録をされて、後世に伝えていこうという取り組みをされている例がある。しかし、大部分の自治会では、特に工夫をしていない状況であった。</p>
<p>9. 協議会で検討している内容</p> <p>東近江圏域 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会</p> <p>検討項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水害履歴や地域の知恵の収集発信（水害体験者への聞き取り調査） ・ 出前講座や水害図上訓練の実施 <ul style="list-style-type: none"> ■ 水害に備える意識の高揚 ■ 地域の状況に合わせた避難判断水位の設定 ■ 琵琶湖の水位上昇に伴う長期浸水への対応 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会の検討項目とその目的を説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>この東近江の協議会では、一番メインに水害に備える意識を高めていただく必要があるということで、取り組んでいるところだ。そのために、水害履歴とか、知恵の収集発信、要は水害体験者の方への聞き取り調査をさせて頂き、それをまた皆さんの方にお返しをするというような取り組みをしていきたいと思っている。また、今日のような出前講座とか、水害図上訓練なんかを皆さんと供に実施させて頂き、意識を高めていく取り組みを進めているところだ。</p>
<p>10. 出前講座の内容</p> <p>本日の出前講座の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去の被災状況を知ろう 伊勢湾台風災害について 2. 相手（洪水）を知ろう 日野川改修後の地域の浸水予測について 3. 川の外での対策を考えよう 水防活動や避難誘導などについて 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座の内容について、簡単に説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>今日のこの出前講座の内容について、簡単に説明させていただく。まず、過去の被害状況を知ろうということで、地域の方に伊勢湾台風災害について経験をお話して頂く。</p>

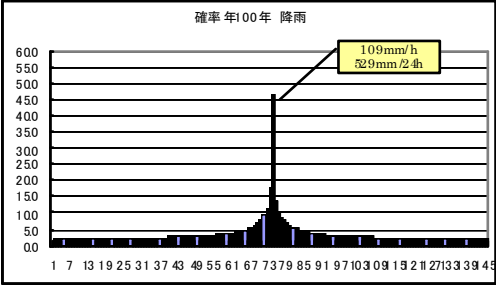
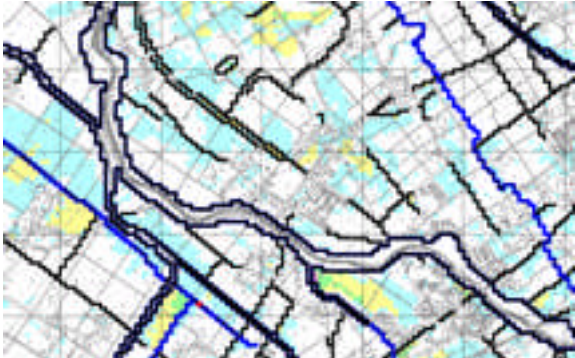
スライド	話す内容
<p>10. 出前講座の内容</p> <div data-bbox="252 349 730 707" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">本日の出前講座の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 過去の被災状況を知ろう 伊勢湾台風災害について 2. 相手（洪水）を知ろう 日野川改修後の地域の浸水予測について 3. 川の外での対策を考えよう 水防活動や避難誘導などについて </div>	<p>【参考説明文】</p> <p>その後、洪水を知ろうということで、日野川改修ができたが、改修後のこと、県の方で作成した氾濫シミュレーションを見ていただき、お話をさせていただく。そういう浸水状況を踏まえて、私達が住む川の外でどういう取り組みが必要なのか。特に水防活動や避難誘導などについて皆さんと一緒に考えていきたいと考えている。</p>
<p>11. 出前講座のポイント</p> <div data-bbox="188 779 791 1234" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">本日の説明ポイント</p> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ポイント1 「災害は忘れた頃にやってくる」 過去の体験や知恵を今後にかす取り組みを</p> </div> <div style="background-color: #e0e0ff; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>ポイント2 「水害は予測が可能」 情報を行動につなげる心の準備を</p> </div> <div style="background-color: #e0e0ff; padding: 5px;"> <p>ポイント3 「的確な避難が命を守る」 地域の実情に応じた避難行動を決めよう</p> </div> </div>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座のポイントを整理して、説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>今日のポイントを、まず最初に整理したいと思う。一点目は、古くから言われているように、災害は忘れた頃にやってくる、忘れたところにやってくるというようなことも言われているが、こういう過去の体験とか、知恵を今後にかす取り組みが必要であろうということがポイントの1つである。2つ目は、水害の予測は可能であるということ。これは、地震と大きく違っているということだ。地震は、緊急速報か、5秒前、10秒前というような予測をされるが、水害というのは、台風でも、この前きた18号台風でも、5日前から予想ができ、くるということがわかっていて、地震と異なり、予測が可能であるというような考えだ。そういうことで、予測が可能で、いろんな情報が入ってくるので、そういう情報を、次の行動につなげる心の準備が必要というのが、ポイントの2つ目である。3つ目が、的確な避難が命を守るというようなことで、佐用町では、自主避難をしようということで、避難したが、悲しいことに、途中で濁流に流されて亡くなられた。地域による必要に応じた避難行動を考えていかなければならないというのが3つ目のポイントだ。</p>



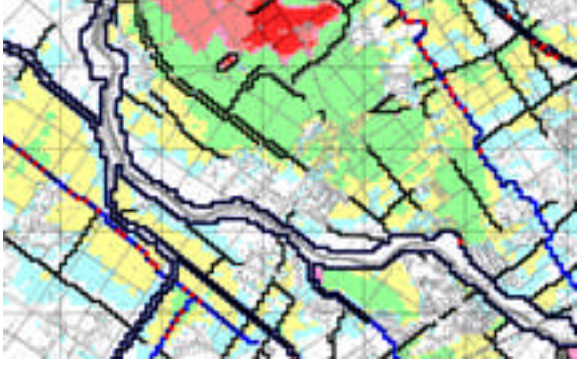
スライド	話す内容						
<p>12. 過去の被害状況を知ろう</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #003366; color: white; padding: 2px;">1. 過去の被害状況を知ろう</p> <p style="text-align: center;">～昭和34年の台風襲来状況～</p>  <ul style="list-style-type: none"> ■ 8月から10月にかけて4個の台風が上陸 ■ 台風7号と、台風15号(伊勢湾台風)により大きな被害が発生 ■ 台風15号(伊勢湾台風)は、929hPaと歴代2番目に低い中心気圧で和歌山県潮岬西方に上陸 </div>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の災害の状況について、台風の経路等を用いて説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>それでは最初の、過去の被害状況を知ろうということで、昭和34年の台風襲来については8月から10月にかけて4個の台風が上陸している。台風6号、7号、そして15号16号ということで、日本に上陸し、滋賀県では台風7号、お盆の直前にきた台風7号と、伊勢湾台風がきたところで、大きな被害が発生した。</p>						
<p>13. 水害の記憶と記録（台風7号）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #00bfff; padding: 2px;">水害の記憶と記録</p> <p style="font-size: small;">昭和34年(昭和)8月12日～13日(台風7号) 西濃の両台風で8月12日～13日に美野川流域に集中豪雨をもたらした。時間断の最大は香取で6mm、吉野で6.7mmであった。13日午後には美野川流域に、雲には美野川へと降流域移動していた。午前中で200～300mm、東部は雨前で600mmに達した。</p>   <p style="font-size: x-small;">昭和34年(昭和)8月15日 彦根市 旭町 / 提供: 彦根市博物館 道路が冠水した彦根市の状況。写真撮影に際しては、橋が壊れていたが、水があふれて道路との区別がなくなった。</p> <table border="1" style="font-size: x-small; width: 100%;"> <tr> <td>被害概要</td> <td>人的被害 死者…4人 負傷者…18人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>住宅被害 全壊…16戸 半壊…72戸</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床上浸水…2,434棟 床下浸水…17,081棟</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">昭和34年8月(台風7号)</p>	被害概要	人的被害 死者…4人 負傷者…18人		住宅被害 全壊…16戸 半壊…72戸		床上浸水…2,434棟 床下浸水…17,081棟	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 昭和34年の台風7号について被害状況等を説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>これは、8月にきた台風7号だが、滋賀県の東側、これは降水量分布図になっており、東側と西側に沢山の雨が降った。</p>
被害概要	人的被害 死者…4人 負傷者…18人						
	住宅被害 全壊…16戸 半壊…72戸						
	床上浸水…2,434棟 床下浸水…17,081棟						
<p>14. 水害の記憶と記録（伊勢湾台風）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center; background-color: #00bfff; padding: 2px;">水害の記憶と記録</p> <p style="font-size: small;">昭和34年(昭和)9月26日伊勢湾台風 真夏期に北東方向に進んだ両台風で、特に伊勢湾側に大きな被害をもたらした。気圧は最低で観測史上最低の949.5hPaを記録し、降流域は美野川流域で400～500mm、伊勢湾で00～400mm、風速は平均風速20m/s以上の暴風雨であった。</p>   <p style="font-size: x-small;">昭和34年(昭和)9月 近江川流域 彦根 / 提供: 彦根市博物館 水害予報地(近江川流域)は日野川決壊で下まで冠水したため、26日夜20時13分が避難勧告された。</p> <table border="1" style="font-size: x-small; width: 100%;"> <tr> <td>被害概要</td> <td>人的被害 死者…16人 負傷者…114人</td> </tr> <tr> <td></td> <td>住宅被害 全壊…342戸 半壊…1,309戸</td> </tr> <tr> <td></td> <td>床上浸水…5,920棟 床下浸水…19,810棟</td> </tr> </table> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">昭和34年9月(伊勢湾台風)</p>	被害概要	人的被害 死者…16人 負傷者…114人		住宅被害 全壊…342戸 半壊…1,309戸		床上浸水…5,920棟 床下浸水…19,810棟	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 滋賀県における伊勢湾台風の被害状況等を説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>伊勢湾台風も同じように東側で沢山の雨が降り、死者16名というような大きな被害が出ている。</p>
被害概要	人的被害 死者…16人 負傷者…114人						
	住宅被害 全壊…342戸 半壊…1,309戸						
	床上浸水…5,920棟 床下浸水…19,810棟						

スライド	話す内容
<p>15. 昭和 34 年 9 月の伊勢湾台風による被害状況</p> <p>昭和34年9月の伊勢湾台風による被害状況</p> 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 滋賀県における伊勢湾台風の被害状況等を説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>それでは、破堤の航空写真を参考にして、〇〇さんの方から、当時の状況のお話を頂きたいと思います。</p>
<p>16～19. 水害体験者からのお話</p> <p>伊勢湾台風による被害</p> <p>仁保橋が・・・</p>  <p>洪水で流されてしまいました</p> <p>伊勢湾台風による被害</p>  <p>小田町集落</p> <p>日野川の堤防</p> <p>現在の状況</p> <p>日野川</p> <p>9月27日午前10時頃右岸堤防2カ所目が破堤</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水害体験者の方から、お話を頂く。 <p>【参考説明文】</p> <p>（水害体験者のお話）</p> <p>ありがとうございました。実際に体験された、こういうお話を聞くと、当時の大変だった状況が実感できる。私も、8月にここでお話をお聞きして、その時の写真を借りて、当時と同じアングルでこの家がそうだということをお話を頂いたので、今現在の状況のところはこういう海のような状況になっていたとお聞きした。</p>

スライド	話す内容
<p>16～19. 水害体験者からのお話</p> <p>伊勢湾台風による被害</p>  <p>現在の状況</p>  <p>小田町周辺の浸水状況 多くの住宅が床上浸水となりました。</p> <p>伊勢湾台風による被害</p>  <p>現在の状況</p>  <p>小田町</p> <p>江頭町では集落内が浸水し、各家庭の田舟が路地裏に流されてしまいました。</p>	<p>【参考説明文】</p> <p>こういうお話を集落でも、年に1回といただきますか、9月26日になったら、こうだったんだよというような取り組みを是非していただきたいと思う。</p>
<p>20. 伊勢湾台風による被害</p> <p>伊勢湾台風による被害</p>  <p>現在の状況</p>  <p>水茎町では1階が水没してしまいました。</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田町以外の被害についても説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>その小田町でできた水が、水茎の干拓の方に入り、干拓なので地盤が低いので、1階が水没してしまった。これは現在のお家だが、1階が水没してしまったというお話もお聞きした。</p>

スライド	話す内容
<p>21. 伊勢湾台風による被害</p> <p>伊勢湾台風による被害</p> <p>たくさんの方が北里小学校に避難しました。</p> 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊勢湾台風の被害について、説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>これは北里小学校に避難されているという写真だ。</p>
<p>22～23. 伊勢湾台風による被害</p> <p>伊勢湾台風による被害</p> <p>昭和34年10月9日(金) 朝日新聞滋賀版より抜粋</p> <p>被災者はどうしている？ 伊勢湾台風のあとを訪ねて</p> <p>小田町百へタールの水田のうち 八十九ヶ タールが砂に埋まってしまった。 お百姓さんたちは、「今年は八徳半から九徳も 取れる出来栄だったのに」と口々に嘆いている。</p> <p>小田町の上手に当たる新道の堤防が切れを 同時に、小田町一帯は野川の主流と化してし まった。</p> <p>小田町民が三十日から応援に駆けつけ、二台 のブルドーザーの助けを借り、深さ一メートル を超す濁流の中で、仮堤防を造って水をせき止 めたのは三日の昼前。</p> <p>仮堤防といっても川底が砂で杭が打てないので 砂袋やぬれタタミを置いたブルドーザーで砂を 寄せ集めただけのもの。</p> <p>果は復旧工事に自衛隊や消防隊の出動を求め ていたが、八日から同隊の五十余人が出動した。</p> <p>伊勢湾台風による被害</p> <p>昭和34年10月9日(金) 朝日新聞滋賀版より抜粋</p> <p>濁流の流れ込むのは止まったが、小田町住 の九割は床上浸水。家に帰っても睡るとも もない人たちは、小学校で雑居生活しながら 家の復旧と取り組んでいる。</p> <p>〇〇さんには聞けば、布田もカンスも泥まみれ。 三十羽の鶏を流し、七十アルの水田を失っ たという。五人家族で昨年の米の獲りは一俵 そこそこ。おこわが四十分だ。家の手入 れに追われており、まだ田のこまで煮える 余地がない。これかびびりして食っていくの ら……と気抜きの表情だった。</p> <p>町内の井戸は全部ダメ。飲み水を一キロあま り離れた小学校からバケツで運んでいる主婦 の姿が目につく。</p> <p>燃料不足もひどく、共同炊事も容易でないとい か。この地方は山林がないため、燃料はみなつ らとか薪炭だったが、みんなあきらめている。せ めて好天気が二、三日でも続けばこの暑さも しまり。</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 当時の新聞の抜粋を用いて、伊勢湾台風の被害について説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>県立図書館の方に行き、その当時の写真、新聞記事を探してきたら、丁度朝日新聞の滋賀版に10月9日、昭和34年の10月9日に、「被災者はどうしている？伊勢湾台風のあとを訪ねて」ということで、掲載されていた。この小田町を訪ねてというようなことで、書かれている記事を見つけたので、参考までにご紹介させていただきたいと思う。</p> <p>(記事の内容を読む)</p> <p>当時の方は大変なご苦労をされたということで、今一度、皆さん思い起こして、過去の体験を考えていただきたいというふうに思っている。この50年前のこの小田町にの状況について話をおききたので、次は現時点においてこれから浸水する様子をご説明させていただきたいと思う。</p>

スライド	話す内容
<p>24、25. 伊勢湾台風による被害</p> <p>2. 相手(洪水)を知ろう</p> <p>■地域の浸水の時間的変化を、平面の画像で説明します。</p> <p>■「どの区域から浸水し始めるのか」「どの程度の浸水深になるのか」について注目してください。</p> <p>計画を超える洪水が発生した場合</p>  <p>(参考) 計画降雨 204.8mm/日(確率年50年) 10月7日～8日台風18号:112mm/24h(日野観測所)</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画規模以上の洪水波形について説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>昭和34年、伊勢湾台風で、甚大な被害が起った。それから、県庁の方では、日野川の河川改修を進めてきたが、小田町の方から、河口から川幅を広げる、それから川底を切り下げるといふ工事を順次進めて参りまして、小田町の先のあたりは日野川の改修は終わっている状況だ。ただし、今、河川改修を進めている規模というものは、下の方に書いている、確率年50年、50年に1回の雨が降った時に川が溢れないような工事というのを順次進めている。ただし、先ほど説明があったように、今年の7月、8月に山口県の方や九州の北部、この間に膨大な量の雨が降っている。今回、県庁の方でシミュレーションした結果、こちら棒グラフで示しているとおり、こちら雨のグラフだが、時間で、一番ピークのところで、1時間で109mmという雨である。これから、24時間で529mmという雨が降ったときの状況を見ていただこうと思っているが、今年の山口県のあたりには1時間に120mmという雨が観測されており、24時間でも、400mmにせまるような雨が観測されている。この、小田町の地先でも、こういった雨がいつ降るかわからないという状況だ。</p>
<p>26～31. 浸水深の時系列変化</p> <p>降雨開始から12時間後</p> 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水深の時系列変化について、小田町周辺はどのように新水深が変化しているかを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>100年に1度の雨が降ったとき、時間的にどういふ変化をしていくのかということころは、浸水すると色がついているという状況が見ただけ。12時間後が雨のピークとなっている。</p>

スライド	話す内容
<p data-bbox="188 295 552 327">26～31. 浸水深の時系列変化</p> <p data-bbox="306 376 654 407">降雨開始から14時間後</p>  <p data-bbox="306 855 654 887">降雨開始から16時間後</p>  <p data-bbox="306 1335 654 1366">降雨開始から18時間後</p> 	<p data-bbox="836 295 1015 327">【参考説明文】</p> <p data-bbox="820 344 1407 1093">12 時間後を過ぎると、浸水の色が増えてきているというのが見れる。黄色がついているところは、50cm から 1mの浸水である。緑の色のところは、1mから 2mの浸水という状況である。14 時間後になると、小田町のあたりの田んぼも、黄色のエリアが出てきており、50cm から 1mといった浸水状況が見られる。降雨開始から 16 時間後になると、破堤箇所も増加してきている。また、水茎の辺りでは、ピンク色がついていて、この辺り 3mから 4mといった浸水状況が確認されている。18 時間後になると、小田町のまわりの田んぼも、緑色がついており、この辺りも 1mから 2mといった浸水状況が確認されている状況となっている。この時間になると、どこが道路か、水路かというのが見えない状況になっているのが予想される。</p>

スライド	話す内容
<p>26～31. 浸水深の時系列変化</p> <p>降雨開始から20時間後</p>  <p>降雨開始から22時間後</p> 	<p>【参考説明文】</p> <p>降雨開始から 20 時間後になると、このように小田町の住宅の中も少し青色の部分や、黄色の部分、1mに近いような浸水が確認されているところがある状況である。22 時間後になると、浸水の範囲がかなり広がってきている。水茎地区からの浸水の広がりが特に大きくなっている。また、小田町周辺の住宅でも黄色の1m に近いような浸水の箇所が増えている。</p> <p>このような状況で、小田町の集落の辺りは地盤はかなり高い状況だが、そのまわりはかなり2mに近いような浸水の状況も見られている。また、集落の中も 50 cm 未満、それから 1m に近いような浸水が、100 年に 1 回という改修規模を超えるような雨が降った場合には、こういった浸水状況が見られるという状況が見ただけだと思う。</p>
<p>32. 地域防災力のアンケート結果</p> <p>3. 川の外での対策を考えよう</p> <p>地域防災力アンケート(H20. 2)の結果</p>  <p>内閣府の診断手法を活用して各自治会の地域防災力を診断</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災力のアンケート結果を説明し、川の外での対策の導入部分の説明をする。 <p>【参考説明文】</p> <p>これは、地域防災アンケートということで、自治会長さんにアンケートを答えていただきまして、国が内閣府で、地域防災力のアンケートに答えると、地域防災力が点数で出るというようなものがあり、それをアンケートの中に入れ、自治会長さんに答えていただいた。</p>

スライド	話す内容
<p>32. 地域防災力のアンケート結果</p> <p>3. 川の外での対策を考えよう</p> <p>地域防災力アンケート(H20. 2)の結果</p> <p>内閣府の診断手法を活用して各自治会の地域防災力を診断</p>	<p>【参考説明文】</p> <p>この青は、近江八幡市で91自治会の自治会長さんに回答いただき、その平均だ。赤が小田町さんの点数で、大分いびつな形になっている。これは自治会長さんのマルの仕方、考え方の有無もあるので、正しく小田町の考えを反映しているというようなことではないかもしれないが、大まかな傾向が見られるんじゃないかと思っている。防災力の体裁力、非常に大切、時には非常に整っているというようなことが見えるが、全体として、自主避難判断とか、水防活動といったところが弱いのかなという状況が見られたので、今日はこの水防活動、自主避難判断というところをどう伸ばしていきたいのかというようなことを皆さんと供に勉強したいと思う。</p>
<p>33. 水防活動</p> <p>3. 川の外での対策を考えよう</p> <p>(1)水防活動</p> <p>住民意識の違いが生んだ災害対応の差 2004.7.13 新潟豪雨災害の例</p> <p>被災前 2001.7 新潟市税務課撮影 被災後 2004.7.23撮影</p> <p>群馬大学大学院 片田教授講演資料</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟豪雨を例に、水害に対する意識の違いがどのような影響をもたらすかを説明している。 <p>【参考説明文】</p> <p>まず1つ目、水防活動である。これは、平成16年に新潟豪雨で刈谷田川が破堤した、破堤する前の写真である。ここで堤防が破堤したのだが、皆さん、どこが破堤したか分かりますか。通常、今おっしゃられたように、ここが水あたりで、破堤の恐れがある。実際はどうだったかというと、ここなんです。この白いのが見える。これは土嚢である。この右岸側と左岸側の住人の意識の違いが生んだ災害対策と書いているが、群馬大学の片田先生がこのあとに地元現場に入られ、皆さんの意識なり、活動の調査をした。</p>

33. 水防活動

3. 川の外での対策を考えよう

(1) 水防活動

住民意識の違いが生んだ災害対応の差

2004.7.13 新潟豪雨災害の例



被災前 2001.7

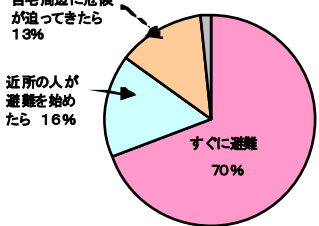

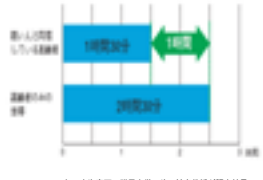


被災後 2004.7.23


群馬大学大学院 片田教授講演資料





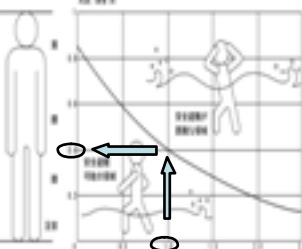
【参考説明文】

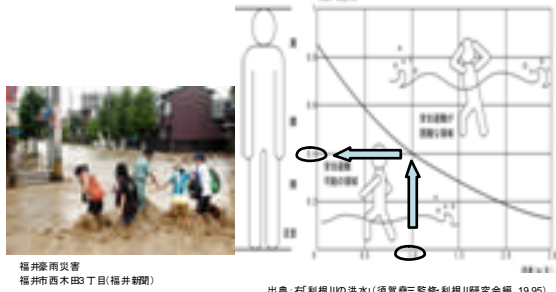
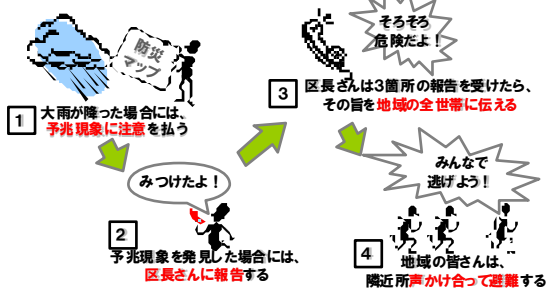
右岸側は、今言われたように、非常に危険なところだと認識しているの、非常に破堤するというのを、住民の皆さんはよくご存じで、水位が上がる前から非常に気にして、沢山の方が水位の上がる、上昇の上がる様子を見ておられ、当時の自治会長さんが「これはいつもの水位の上がり方と違う」とおっしゃった。だからみんな帰って、女性の方や老人の方はすぐ避難をして、若い消防団は、すでに出ておられたが、消防隊以外の若い人は全部出てこいということで土嚢を積んでいる。それでもどんどん水位が上がってきて、これ以上上がったら土嚢が崩れてしまうので、もう逃げようと言っていたら対岸が切れたというような状況だった。今度、左岸側を見てみると、同じように消防の方はいたが、こちらの方は危険性をあまり意識がなかった状況だったと先生は言われている。水害は中々みんなが助かるということではない。ここから溢れてしまう。川の器以上の雨が降ったら、そこから溢れてしまう。右岸側は助かったが、左岸側は増えてしまう。そんな悲しい現実だが、この右岸側の方は、みんなで水防活動して、地域を守ったというようなことが言えるのではないかと思います。


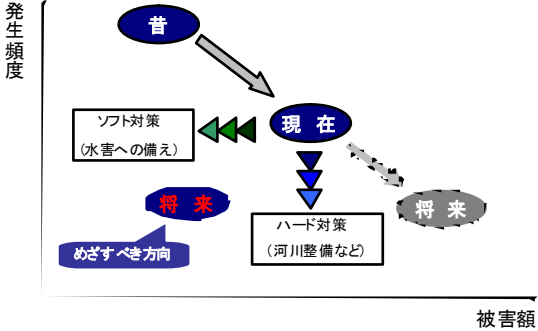
スライド	話す内容
<p>34. 避難行動</p> <p>3. 川の外での対策を考えよう</p> <p>(2) 避難行動</p> <p>避難勧告が出された場合、どのような行動をとりますか？</p>  <p>県政モニターアンケート(H19.12)結果</p> <div data-bbox="542 504 758 750" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(参考)</p> <p>H16.7 新潟豪雨災害</p> <p>自宅以外に避難した割合</p> <p>24%</p> <p>三条市・・・21%</p> <p>見附市・・・29%</p> <p>中之島町・・・37%</p> <p>(新潟県防災課「新潟県災害対策調査報告書」より)</p> </div>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難勧告時にアンケートでは、すぐに避難すると回答している人が多いが、実際の災害時に避難している人は少ないことを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>二つ目の避難行動というところである。避難勧告というのが、ここでは、近江八幡の方から避難勧告が出るが、そういう場合にはどのような行動をとりますかということで県政モニターアンケートをとりますと、当然、すぐ避難するという方が7割。近所の人が避難を始めたら避難する、自宅周辺に危険が迫ってきたら避難する、ほとんどの方が避難するよというふうに言われている。でも実際、災害が起きたところはどうかというと、これも同じように平成16年の新潟豪雨だが、自宅以外に避難した人の割合は24%ということで、通常、平常時より当然避難するよというふうに思っている人も、なかなか万が一の時には、人間というのは、避難ができないというのが実際だ。</p>
<p>35. 避難行動 2 (高齢者の方の避難について)</p> <p>高齢者など災害時要援護者の被災が増加</p> <p>「避難勧告」の前に「避難準備情報」を発令するよう変更</p>  <p>平成16年7月の新潟・福島豪雨と 福島豪雨での年齢別死者数</p>  <p>高齢者が避難に要した時間</p> <p>出典元: 国土交通省 河川局 災害情報より</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の方は避難に時間を要するので、早めの避難準備が必要であることを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>一方で、高齢者の方などの災害要援護者の避難が非常に増えているというようなことが現状だ。これも16年だが、75歳以上の方が、半分以上というようなことで、高齢者の方の避難が多いというのが特徴だが、これは、高齢者の方が避難に要した時間が高齢者のみの方の世帯と、若い人の世帯、同居している世帯というところで、1時間差があるというような調査結果が出ていて、若い以上に早く高齢者の方は避難の準備をする必要があるというふうに言われている。</p>

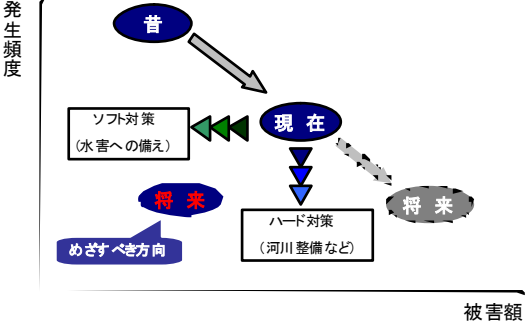

スライド	話す内容
<p>36. 自分での避難判断について</p> <p>あなたは自分で判断して避難ができますか？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■防災スピーカー、サイレンなどを設置して危険を早く知らせてほしい。とにかく何も連絡なし。動けませんでした。(三条市民)</p> <p>■避難勧告などが全く無く、情報が少なく、どう行動をとっていいのか分からなかった。(三条市民)</p> <p>■浸水が進んでも避難勧告がなく、避難できなかった。市の責任は重い。(三条市民)</p> </div> <p>「平成16年7月新潟豪雨災害に関する実態調査」フリーアンサーより</p> <p>避難勧告が無かったから避難できなかった？</p> <p>(群馬大学大学院 片田教授講演資料を一部改変)</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟豪雨災害時のアンケート結果に基づいて、自主避難の重要性について説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>あなたは自分で判断して避難ができますかということで、同じように片田先生が16年7月に新潟で調査された時に被災地の住民の方に意見を聞かれています。1つ目は、防災スピーカーやサイレンなどで早く危険を知らせてほしい。とにかく何も連絡なしで動けませんでした。これは市から。何も連絡がない、動けなかったというご意見。2つ目が避難勧告などがまったくなく、情報が少なく、どう行動をとっていいのか分からなかったというようなご意見がある。3つ目が浸水が進んでも避難勧告がなく、避難できなかったという意見がある。市の責任は重い。よく、水害、災害の被害が起きると、こういうふうに行政が悪いんだ、市の情報が遅かった、聞こえなかったというようなご意見をよく聞く。いつもだが、浸水が進んでも、避難勧告がなかった。だから避難できなかった。それはちょっとおかしいんじゃないかと先生は言っておられた。浸水が進んでも、自分の目の前で浸水が起きているわけだ。それでも、市から避難勧告がなかったから逃げなかった。ということは、自分の命を市に預けているというような状況ではないかというふうに先生は言われている。やはり、こういう浸水が進んで、自分が危ないなと思った場合には、市からの避難勧告がある前に、自主避難が必要だろうというようなことで、考えて頂きたいと思っている。</p>

スライド	話す内容
<p data-bbox="188 295 494 331">37. 避難の際のポイント</p> <p data-bbox="338 385 641 430" style="text-align: center;">避難の際のポイント</p> <div data-bbox="220 452 762 779" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> • 車での避難は控える • 運動靴と杖、ロープ • 避難の時は隣に声かけ • 普段から避難経路や避難場所を確認 • 逃げ遅れたら近くの高い建物に退避  </div>	<p data-bbox="833 295 938 331">【要点】</p> <p data-bbox="826 340 1407 430">・避難時のポイントとなる事項について5項目説明する。</p> <p data-bbox="833 439 1018 474">【参考説明文】</p> <p data-bbox="833 483 1417 1718">その避難の際のポイントは、車での避難は控える。よく長靴で、雨が降っているから。長靴で避難しようかなというふうに思うが、長靴の中に水が入ると、よけい歩きにくいということで、避難の時は運動靴がいいと言われているし、杖とロープ。杖というのは、マンホールなんかが開いていたりして濁水だと足元が見えないので探るために必要である。またロープについては、流された場合でも大丈夫なようにロープをそれぞれが巻き付けて避難をしていくというようなことが必要だというふうに言われている。避難をする時には、お隣も一緒に逃げようというふうに声かけをすると、その方も一緒に逃げていって、地域みんなが避難できるというふうに言われている。片田先生も、率先避難者という方を自治会で作っておいたら効率がいいよというような工夫を教えて頂いた。例えば、自治会の自主防災組織で、どなたか1人がなにをおいても避難をする方。その役割を持って頂き、その方がまず避難をする。そうすると、「あの人が出たよ。そしたら危ないな。私も避難しよう」と、どんどん輪が広がっていくのではないかとおっしゃっている。そして、普段から、避難経路、避難場所を確認することが大切。</p>

スライド	話す内容
<p>37. 避難の際のポイント</p> <p style="text-align: center;">避難の際のポイント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 車での避難は控える ● 運動靴と杖、ロープ ● 避難の時は隣に声かけ ● 普段から避難経路や避難場所を確認 ● 逃げ遅れたら近くの高い建物に退避  </div>	<p>【参考説明文】</p> <p>雨が降ると浸水が起きて通りにくい。そういう危険なところもあるかもわからないので、今一度そういうところも確認頂いて、どういう経路を通して、どこに避難するのかということを今一度確認して頂きたいと思う。</p> <p>そして最後。これが佐用町の水害でお話したように、逃げ遅れたら近くの高い建物に退避する。避難場所に避難すればいいという場合もあるが、そうではなくて、近くの高い建物に避難するという方法も必要な場合もあるというもの頭の中に入れておきたい。</p>
<p>38. 避難判断力を高めよう。</p> <p style="text-align: center;">避難判断力を高めよう！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>浸水の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 流速 浸水深 浸水時間 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>自宅の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 木造 コンクリート 平屋 二階建以上 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>避難方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 浸水前の 早めの避難 備えをした 上での待機 </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水平避難を行うか、垂直避難を行うかについて佐用町の事例を用いて説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>避難判断力を高めようということです。佐用町では浸水80cmのときに避難中に犠牲に。他の町営住宅の方は2階へ逃げて助かった。これからは浸水の状況や自分の自宅の状況によって浸水前に早めに避難する必要があるところと、そうではなくて、備えをした上で2階以上の高いところに避難するというような避難の判断を、どうしたらいいのかということを高めていきたいと思う。</p>
<p>39. 水深・流速と避難行動の関係</p> <p style="text-align: center;">水深・流速と避難行動の関係</p> <p>身長1.5m 流速1m/秒の時 水深0.6m (1.5m×0.4) 以上では安全避難が困難</p> <div style="display: flex; align-items: center;">   </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;"> 福井県西木田3丁目(福井新聞) 出典: 右利根川の洪水(須賀 勇三 監修・利根川研究会編 1995) </p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水深・流速と避難行動の関係から、いつでも避難できるとは限らないこと及び水平避難、垂直避難の判断について説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>いつでも避難ができるということはない。こちらに氾濫の流速という、流れる早さ、それと水深、これは身長と水深の比、こちらの線は、これよりも上になると、安全に避難ができないことを示したものの。</p>

スライド	話す内容
<p>40. 水深・流速と避難行動の関係</p> <p>水深・流速と避難行動の関係</p> <p>身長1.5m 流速1m/秒の時 水深0.6m (1.5m×0.4) 以上では安全避難が困難</p>  <p>福井豪雨災害 福井市西木田3丁目(福井新聞)</p> <p>出典: 石利根川の洪水(須賀亮三監修・利根川研究会編 1995)</p>	<p>【参考説明文】</p> <p>例えば、流速が1mの流速がある氾濫が流れているというところで避難をしようとする、身長が1m50cmの方だと、矢印をつけると、0.4というところにぶつかる。つまり、1m50cmの身長の方だと、4割をかけると、60cm。60cm以上の水深以上のところでは、完全に避難できない。逆に流されてしまう。これがどんどん流速が早いと、水深が低くても危ないという状況なので、そのことを十分注意して、避難をしたらいいのか、自宅で2階以上に避難したらいいのかということを考えて頂きたいと思う。</p>
<p>41. 自主避難ルールを作ろう</p> <p>自主避難ルールを作ろう</p> <p>土砂災害に対する自主避難ルール(群馬県みなかみ町栗沢区の事例)</p>  <p>1 大雨が降った場合には、予兆現象に注意を払う</p> <p>2 予兆現象を発見した場合には、区長さんに報告する</p> <p>3 区長さんは3箇所を報告を受けたら、その旨を地域の全世帯に伝える</p> <p>4 地域の皆さんは、隣近所声かけ合って避難する</p> <p>(群馬大学大学院 片田教授講演資料より)</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 群馬県みなかみ町栗沢地区の事例を参考に自主避難ルールの作成を促すように説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>その為に、自主避難ルール、小田町は小田町なりの自主避難ルールを作って頂きたいと思っている。これは土砂災害に対する避難ルールの事例だが、土砂災害というのは非常に前兆現象が分からない。いつ起こるか分からないというような難しい災害だが、この町では予兆現象を発見した場合には、区長にまず報告しようというように約束がされている。区長は3箇所から「こんな現象があったよ。」「あんな現象があったよ。」3つ集まったらその状況を地域の全世帯に伝えて、声かけあっていくよというような自主ルールを作って備えている状況だ。この小田町でもそういうルールを作って、こういう時にはどういった避難をしようというような取り組みをして頂ければと思う。</p>

スライド	話す内容
<p>42. 水害図上訓練の紹介</p> <p>水害に強い地域を目指す取り組み</p> <p>◆ 水害図上訓練R-DIG(Disaster Imagination Game)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県で洪水ハザードマップを普及させる方法として改良 ・地図を囲みながら参加者全員で水害時の対応策などを検討 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主避難ルールの作成方法として、R-DIG (水害図上訓練) について紹介し地域で行っていたように説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>このルールを作る時に、1つの方法として、水害図上訓練というのを実施している。これは静岡県で開発された訓練だが、地図を囲みながら参加者全員で水害時の対策を考えていくということで、本県でも粟東市とか湖南市とか、今年も先日虎姫町の方で水害図上訓練をやってきた。小田町でも、一度やってみたいということなら、喜んでまた寄せて頂きたい、地域の図面を囲んでどういうふうに逃げたらいいのかとか、どういうところが危険なのかというのを皆さんと議論しながら、自主ルールを作るような取り組みを今後は是非して頂きたいと思う。</p>
<p>43. ハード対策、ソフト対策について</p> <p>ハードとソフトは水害対策の両輪</p> 	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドの図を用いて、ハード対策のみではなく、水害への備えなどソフト対策の重油尾せいを説明する。 <p>【参考説明文】</p> <p>ハードとソフトは水害対策の両輪。避難できたらいいじゃないかというようなことだが、そうではない。私達の備えも必要だということを宣言していきたい。横軸は被害額。縦軸が水害の発生頻度で、昔は何回も何回も、数多くの被害が発生していた。しかし、川の近くには人が住んでいなかったため、被害は少なかった。一生懸命、この発生頻度を控除してきて、少ないように今なっていく。ただ、残念ながら安全が増えるということで、川の近くにみんなが住んできたので、万一氾濫した場合には被害が昔から比べると大きくなっている。</p>

スライド	話す内容
<p>43. ハード対策、ソフト対策について</p> <p>ハードとソフトは水害対策の両輪</p> 	<p>【参考説明文】</p> <p>今後も川は整備して氾濫の頻度を減らしていきたいと思っているが、同じような考えをしていると、回数は減るが、万一氾濫した場合には、昔よりも被害が大きくなってしまっているというような危険性があるので、やはりこれは回数を抑えると共に、氾濫した場合でも被害額を減らす。そういう取り組みをしていく必要があるということで、ハードとソフト、両方とも必要だということをご理解頂きたい。</p>
<p>44. 本日のおさらい</p> <p>本日のおさらい</p> <p>ポイント1 「災害は忘れた頃にやってくる」 過去の体験や知恵を今後を生かす取り組みを</p> <p>ポイント2 「水害は予測が可能」 情報を行動につなげる心の準備を</p> <p>ポイント3 「的確な避難が命を守る」 地域の実情に応じた避難行動を決めよう</p>	<p>【要点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座で説明した事項をもう一度説明し、住民に思い出していただく。 <p>【参考説明文】</p> <p>もう一度今日のおさらいをしていきたいと思う。1つ目、「災害は忘れた頃にやってくる」というようなことで、ちょうど台風から50年、安全な月日を重ねてきたが、今一度過去の体験や、先人の知恵を次の世代に引き継ぐ取り組みをしていきたいというような1点目である。2点目が「水害は予測が可能である」というようなことで、いろんな情報を県なり市から皆さんの方に発信をするので、そういう情報を次の避難の行動に繋げて頂きたいというのが2点目である。3つ目が「的確な避難が命を守る」ということで、小田町は小田町さんの必要に応じて避難のルールを作って頂きたいというのが3点目である。</p>
<p>45. まとめ</p> <p>今日の出前講座を契機に 『水害に強い小田町』をめざしましょう</p> 	<p>【参考説明文】</p> <p>今日の出前講座の期日といたしまして、皆さんが考えて次の行動に移って頂ければ幸いです。長時間に渡ってありがとうございました。私の方の説明は以上です。ありがとうございました。</p>